



2025年4月1日

熊本市
国立大学法人熊本大学
公立大学法人熊本県立大学
株式会社 NTT ドコモ
NTT コミュニケーションズ株式会社

熊本市の教育 ICT 推進に向けた連携協定を更新 ～教育データ利活用の取り組みを開始～

熊本市、国立大学法人熊本大学(以下 熊本大学)、公立大学法人熊本県立大学(以下 熊本県立大学)、株式会社 NTT ドコモ(以下 ドコモ)、NTT コミュニケーションズ株式会社(以下 NTT Com)は、2018年10月22日付で締結した「熊本市の教育情報化の推進に関する連携協定」(以下 本協定)の協定内容を2025年4月1日に更新しました。更新した本協定は、2018年の締結から継続している取り組み内容を見直し、GIGA スクール構想^{※1} や2030年ごろをめどに施行される次期学習指導要領を見据えた取り組みを追加したものです。

また、本協定の更新にあわせ、新しく協定内容に追加した「教育データの利活用」をテーマとした実証事業を2025年6月に開始します。

1.背景

熊本市、熊本大学、熊本県立大学、ドコモの4者は、熊本市における教育 ICT の推進をめざし、2018年より本協定を締結し、「ICT 活用モデルカリキュラム」の開発などに取り組んできました。

その中で、デジタル庁の掲げる「誰もが自分らしく学べる社会」の実現にむけ、教育データの利活用をさらに促進する必要性がありました。そこで、NTT Com を協定に加え、「GIGA スクールパック」などの学習用コンテンツを活用し、教員・子どものデータ利活用を推進できるように内容を見直しました。

2.本協定の更新概要

本協定にもとづき、5者は協力して以下に取り組めます。

1. ICT 活用モデルカリキュラムの改訂および教員研修の実施

学校の授業に用いられる本協定にて作成した ICT 活用モデルカリキュラムを、日々洗練し、随時、教員向けに研修を行います。これにより、教員の ICT 活用モデルカリキュラムへの理解度を合わせ、ICT 活用の取り組みが組織的・体系的に行われることを狙います。

2. プログラミング教育の普及のための取り組み

熊本市全体のプログラミング教育の認知、理解を促進するため、児童生徒向けにプログラミングスクールなどを実施します。プログラミングの学習機会のある場（熊本市立小中学校の児童生徒向けサマースクールなど）を提供することで、社会課題解決の手段として活用されていることを実際にイメージできるようにします。

3. 教育データの利活用に関する取り組み

GIGA スクール構想によって熊本市が整備したタブレット端末から得られる教育データを、NTT Com の「AAR ポータル^{※2}」を通じて、利活用する実証事業(以下 教育データの利活用に関する実証事業)を行います。これにより、教育データの利活用し、学びを支える環境をより効果的・効率的に整え、生徒個別の「個別最適な学び」・「協働的な学び^{※3}」の実現をめざします。「教育データの利活用に関する実証事業」の詳細は、別紙 1 を参照ください。

3.各者の役割

各者の役割は以下の通りです。

熊本市	<ul style="list-style-type: none">ICT 環境の整備市内学校など研究フィールドの提供
熊本大学	<ul style="list-style-type: none">ICT 活用モデルカリキュラムの改訂教員研修の監修、および実施
熊本県立大学	<ul style="list-style-type: none">プログラミング教育などの学習機会の提供
ドコモ	<ul style="list-style-type: none">5G/4G 回線、iPad などのインフラ提供
NTT Com	<ul style="list-style-type: none">教育データの利活用に関するツール/コンテンツの提供教育データの利活用に関する各種施策の企画、実施

4.今後の展開

5 者は、文部科学省の GIGA スクール構想によって熊本市が整備したタブレット端末の利用で得られるデータを活用し、「個別最適な学び」・「協働的な学び」の推進に向けて、全国に展開が可能な ICT 教育の有効的手法の策定をめざします。

また、「教育データの利活用に関する実証事業」の成果をもとに、子どもたち自身が教育データを活用し、学習の進度や理解度に応じた最適な学習方法で自己調整を行いながら学びを深めるモデルを確立し、熊本市内全域の小中学校へ展開をめざします。

※1：GIGA スクール構想とは、文部科学省が推進する児童生徒に1人1台の端末と高速な通信ネットワークを整備し、ICTを活用した教育を推進する施策です。

※2：「AAR ポータル」とは、子どもたち自身がデータを活用し、まなびポケットのビジョン「誰もが自分らしく学べる社会」の実現に向けて、自己調整学習を支援するポータルです。詳細は別紙1をご確認ください。

※3：「協働的な学び」とは、文部科学省が推進する学習形態の一つで、生徒同士が対話や協力を通じて学び合うことを重視する教育方法です。単なる知識の習得だけでなく、主体的に考え、他者と協力しながら課題を解決する力を育むことを目的としています。

「教育データの利活用に関する実証事業」の詳細

教育データの利活用に関する実証事業の詳細は以下の通りです。

1.概要

NTT Com が GIGA スクール構想向けに自治体へ提供している「GIGA スクールパック」に付帯している「AAR ポータル」を活用して実証事業を行います。「AAR ポータル」は、子どもたち自身が「見通しを持って (Anticipate)」、「学び (Action)」、「振り返る (Reflection)」という学習プロセスを繰り返し、自己調整を行いながら学びを深める AAR サイクル^{*4}を実現するためのポータルです。すべての子どもたちの可能性を引き出すことをめざし、一人ひとりの理解度や学習履歴などの教育データを利活用し、個々の学びの進度に応じた最適な学習機会を提供します。

AARポータル

A

見通し

時間割から一週間の授業や予定を把握して見通しを立てる

R

振り返り

授業中に撮った黒板やノートをアップしたり、振り返りを入力したりして、学びの記録を残す

A

学び

時間割から授業を選択すると授業で使うコンテンツにアクセスして、学びを始められる






※各機能は順次リリース予定です。画面イメージは変更になる可能性があります。

<AAR ポータルのイメージ図>

2.期間/実証場所

2025年6月～2027年4月

3.場所

市内2小中学校

※4 : AAR サイクルとは、OECDの「Education 2030プロジェクト」が将来の教育のあり方について協議、検討した成果として公表した、「子どもが継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的なプロセス」のことです。